

# 『小鹿野高校』×『尾ノ内溪谷』 竹あかりプロジェクト

取材・文／本 奈代子(地域おこし協力隊)

町の冬の観光名所として定着してきた尾ノ内氷柱。今年はさらに、小鹿野高校の生徒会と元地域おこし協力隊員・仁位彩乃さんによる竹あかりの装飾が施され、SNS等で話題になっています。きっかけは、森町長と小鹿野高校生徒会との座談会でした。竹林の管理・活用といった町の課題と、「インスタ映えする事で町を盛り上げたい」という高校生たちの想い、竹あかりに対する仁位さんの志とが重なって、尾ノ内を竹あかりで飾る今回のプロジェクトが発足されました。

竹林の伐採から、竹あかり製作、設置まで、全ての工程を生徒たちと仁位さんが行いました。竹あかりが点灯された日(1月26日から毎週土曜の日没後)は、氷点下の気温にも関わらず、みんな元気に来場者へ手作りランタンの貸出しをしていました。会場では「綺麗」という声が広がり、絶えずカメラのシャッターが切られていました。生徒会長の新井愛理さんが、来場者や関係者へとインタビューした際も「すごい。いいアイデア。ランタンも綺麗。ぜひ、続けてね。ご苦労様。(両神小森在住・70代女性)」「おおうってなった。2週かけて三大氷柱を回ったけど、こんなに手作りの所はなかった。(熊谷在住・20代男性グループ)」「みんな喜んでる。若い子ががんばっている姿は、見るだけで嬉しくなる。(尾ノ内レディース部隊の皆様)」といった声があがりました。



**新井 愛理さん(2年生)**  
①人に喜んでもらうには言われたことをやるだけじゃダメだと思って、どうすれば綺麗になるかを自分で考えて工夫しながら取り組んだ。  
②自分から率先して仕事する所、大人とも笑顔で挨拶する所、みんなを楽しませようとする所がすごい。(今井さんより)

**大澤 ほかさん(2年生)**  
①プロジェクトを通して、生徒会の雰囲気良くなった。また、過ごす時間が長かったのでみんなが全員としゃべるようになった。  
②基本マイペースに黙々と作業しつつ、皆が疲れている時は和ませてくれた。(黒沢さんより)

<右ページ上段へ>

<高校生コメント続き>

**八木原 寛弥さん(2年生)**

①竹を縦に割る作業は大変だが、やってみると意外とできて周りから任せられ、僕の担当みたいになった。良い発見だった。頼られることは嬉しい。

②シャイだと思っていたが、ランタン配りの時には自分から笑顔でお客様に話しかけていて、積極的なタイプだったんだと気づけた。(吉田さんより)

**小山 鈴華さん(2年生)**

①好きなことに対して自分が努力すれば、周りも助けてくれて広められるということを知り、仁位さんから学んだ。自分の考えを言葉にできるようにもなった。

②周りに気配りができて、迷っている1年生に対して的確な指示をくれた。尊敬している先輩。(強矢さんより)

**吉田 波奈さん(1年生)**

①体験したからこそ山林の維持管理の大変さを感じられた。高齢者が増える中、この取組に協力してくれる人が増えるといい。

②何事にも躊躇せず、自分から行動して、改めてすごいと思った。(大澤さんより)

**出浦 一輝さん(1年生)**

①僕はこれまで自分から行動するようなタイプではなかったが、今回は必ずしも先生と一緒にいなかった分、自ら考えて行動する力が身に付いた。

②全力で役割をこなし、気がついたら「僕行きますよ」とすぐ行動してくるから、助かっている。(新井さんより)

**強矢 千絵さん(1年生)**

①竹あかり製作では、メンバーで唯一、掃除や防腐剤塗りなど、目に見えない作業をがんばった。特別な仕事だと思うと逆に楽しかった。

②常に笑顔で接するので「僕もこの人みたいになりたい」と思っていた。実際に真似してみると、自分の気持ちも明るくなることを学んだ。(出浦さんより)

**今井 颯太さん(1年生)**

①地域の人と関わったことが楽しかった。お客さんにも大きな声で話しかけ、笑顔でランタンを渡すように心がけた。

②責任感が強く、少ない参加日数の中、来た時は人一倍がんばっていた。難しいカット作業も率先して引き受けてくれた。(八木原さんより)

**黒沢 心愛さん(1年生)**

①竹の穴開け作業は難しかったが、仁位さんが「等間隔にできるようにになったね。」など褒めてくれたことが、自信になった。

②積極性が出てきた。また、発表では堂々としゃべれていたと思う。心愛のことをもっと知れた気がする。(小山さんより)

今回のプロジェクトの陰には、たくさんのサポートがあったこともわかりました。尾ノ内氷柱実行委員会、河原沢よってがっせー委員会、尾ノ内作業部隊・レディース部隊、西秩父商工会、ちょこっともてなし隊、竹を提供してくださった方、小鹿野高校の先生方のご尽力や保護者のご理解、その他すべての住民の皆様が見守ってくださったからこそ、一つのプロジェクトを成し遂げることができたのでしょう。これからも小鹿野高校にはぜひ、地域との連携を益々深めていただきたいと思います。本当に、お疲れ様でした。

## ストップ!虐待 ～みんなで防ごう! 児童・高齢者・障害者虐待～

### 虐待とは・・・

殴る、蹴るだけが虐待ではありません。埼玉県虐待禁止条例では、虐待に該当する行為を5つの類型に定めています。具体的な例は次のとおりです。

- ①**身体的虐待**
  - 殴る、蹴るなどの暴力をふるう
  - 車に閉じ込める、置き去りにするなど、危険にさらす
  - 子供の健全な成長を損ねる行為をする など
- ②**性的虐待**
  - 子どもへの性的行為をする、性行為を強要する
  - わいせつな映像等を見せる など
- ③**ネグレクト(放置・放棄)**
  - 食事を与えない、入浴をさせないなど、世話をしない
  - 必要な医療、福祉のサービスを受けさせない など
- ④**心理的虐待**
  - からかう、侮辱する、無視する
  - 子どもの目の前で家族に対して暴力をふるう など
- ⑤**経済的虐待**
  - 年金や財産などを勝手に使う、処分する
  - 日常生活に必要な現金を渡さない、使わせない など

### 虐待のサインを見逃さないでください

- 虐待を受けている人は、周囲の人にサインを出している場合があります。サインに気づいたら相談してください。
- 衣服が汚れている
  - ゴミであふれている
  - 怒鳴り声や泣き声が聞こえる
  - 頻繁に怪我をしている など

### 虐待かもと思ったら・・・

虐待は重大な人権侵害です。また、誰もが虐待の加害者にも被害者にもなる可能性があります。虐待を発見した、虐待を受けている、虐待をしてしまったなど、どうしても分からない場合は、自分一人で抱え込まず、相談してください。相談者や相談内容に関する秘密は守られます。なお、**生命に重大な危険がある**など緊急の場合は、110番へ電話してください。

**<虐待に関する相談・連絡先>**

- 埼玉県虐待通報ダイヤル ☎7171  
※つながらない場合は ☎048-762-7533 (24時間365日対応)
- 小鹿野庁舎・住民課 子育て包括支援室 ☎75-4101(児童虐待)
- 小鹿野町保健福祉センター  
福祉課 ☎75-4109(高齢者・障害者虐待)  
保健課 ☎75-0135(児童・高齢者虐待)
- 児童相談所全国共通ダイヤル ☎189(児童虐待)